

国内

国内クラウド市場 ユーザー動向調査を発表

クラウドを利用する企業は年々増加。パブリッククラウドの利用率は25.1%に
クラウドへのユーザーの期待はITの効率化。クラウドが登場して以来、変わらない

- IDC Japan は、2014年4月に実施したユーザー動向調査「2014年 国内クラウド調査」の結果を発表した。これによると、国内企業におけるクラウドの利用／導入率は堅調に増加している。

クラウドは「SaaS」「パブリッククラウド」「プライベートクラウド」「業界特化型クラウド」といった配備モデルで提供されている。すべての配備モデルにおいて、クラウドの利用率は年々、上昇している。2014年調査では、SaaS、パブリッククラウドを利用中と回答する企業割合は、それぞれ29.6%、25.1%となった。

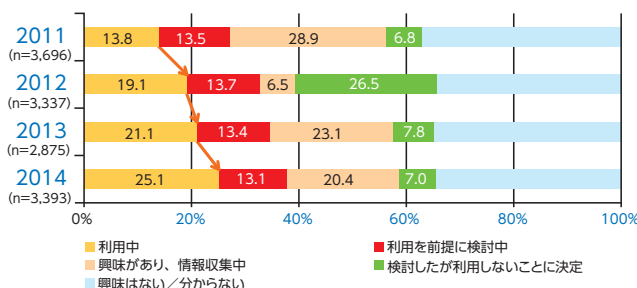
一方、クラウドの認知度（理解度）は、2013年まで、毎年、堅調に向上してきたが、2014年調査ではわずかに低下した。たとえば、「理解している（『よく理解している』『概ね理解している』の合計）」との回答率は、SaaSでは38.8%（2013年）から35.4%（2014年）、プライベートクラ

ウドでは39.6%（2013年）から36.0%（2014年）となった。この背景には、従来、ASP（ホスティング型アプリケーションサービス）や仮想化を「クラウド」と認識してきた企業が、「クラウドの本質」を考えるようになり、クラウドを「理解している」との回答率が下がったためと考えられる。また、クラウドに対する印象は、従来から肯定的な印象を持つ企業が多かったが、2014年調査では、「安価」「迅速」といった利点に対する回答率がわずかに減少した。このことは、クラウドに対する正しい理解が進み、期待過剰傾向にあったクラウドの印象が是正されたためと考えられる。

ユーザー企業のクラウドに対する重

要な期待は、コスト削減を始めとしたITの効率化だ。このことは、クラウドが登場して以来、変わらない。一方、クラウドは、ITの効率化だけでなく、事業や社会活動を変革するプラットフォームとなる。しかし、ユーザー企業において、クラウドによる「イノベーション」に対する認識は高いとは言えない状況だ。

ITの効率化のみに焦点を合わせた場合、クラウドは国内IT市場を縮小に導く。一方、IT（クラウド）を使ったイノベーションは、新しいIT市場を創造すると共に、事業や社会活動を変革する。「クラウドは普及期を迎え、すべてのベンダーは、クラウドに注力する必要がある。ベンダーにとって重要な課題は、『ITの効率化』と『ITを使ったイノベーション』という異なる命題に対応し、効果的な事業戦略の立案と、その迅速な遂行である」とIDC Japan ITサービスリサーチマネージャーの松本聡氏は語っている。



Notes:

- パブリッククラウドの定義を示さずに、パブリッククラウドを理解しているとした回答者を対象とした。
- 利用検討状況の設問では、簡易な定義を提示した。
- すべての配備モデル（[SaaS] [パブリッククラウド] [プライベートクラウド] [業界特化型クラウド]）において、本図表と同様の傾向がみられた。

Source: IDC Japan, 7/2014

図 パブリッククラウドの利用検討状況、2011年～2014年

● お問い合わせ先 ●

IDC Japan (株) セールス
TEL : 03-3556-4761
E-mail : jp-sales@idcjapan.co.jp
URL : http://www.idcjapan.co.jp/